

くすのき



校訓「かしこく やさしく たくましく そしてふるさとを愛する子どもに」

西合志第一小学校
学校だより 第53号
文責 校長 西村羊治

令和7年12月9日

人権作文を読んで

文字が小さくて読みづらいたが、右の作文は、11月29日（金）の熊本日日新聞に掲載された、全国中学生人権作文コンテスト県大会で最優秀賞に選ばれた作品です。米野岳中2年の角田麗奈さんの作品です。内容は、玉名のパン屋さんでの出来事が書いてあります。そのパン屋さんで一人の年配の女性客に出会ったそうです。その女性は、パンを袋に入れようとしていたのですが、どうやら手が不自由で袋を開けることが難しかったようです。その様子を見て、角田さんはどうすべきか迷ったそうです。お手伝いをする気

持ち、急に声をかけるのは失礼ではないのかという気持ち。しかし、おばあさんが困っているのは明らかだったこと、自分が声をかけることで迷惑になったらどうしようという不安、また誰かが助けるだろうという勝手な思いが、頭の中をぐるぐる回っていたのでしょう。しかし、自分が行動しなければ、おばあさんは困ったままだと思い、勇気を出して「お手伝いしましょうか。」と声をかけたそうです。おばあさんは、すぐに「ありがとう、ごめんね助かるわ。」と微笑んでくれたそうです。おばあさんは何度もお礼を言ってくれ、角田さんはおばあさんの不安や困難を少しでも和らげることができ、嬉しくて心が温かくなったとのことでした。

角田さんは、「この体験を通して『人権』は特別なものではなく、日常の中で私たちが簡単に守ることができるものであると学びました。」と綴っています。また、「他人への思いやりや共感の大切さを確認できた。」とも述べています。私もその通りだと思います。普段の生活の中で何気ない気遣いや心遣い、何気ない声かけや配慮、ちょっとしたことに救われる人はたくさんいます。私も今までの教職生活の中で、悩んでいるときに、それに気付いて声をかけてくださった諸先生方がおられます。その様な言動にどれだけ救われたか分かりません。人権意識・人権感覚を研ぎ澄まし、とまでは言えませんが、「あれっ」と思ったときにスルーするのではなく、立ち止まって考え、最善と思う声かけ等ができる校長でありたいと考えさせてもらえる作文でした。

私たちは、学校家庭で「人権」という言葉を耳にする機会が多いですが、その意味を深く考えたり、自分が人権に関わっているかを意識する人は少ないかもしれません。私も以前はその一人でしたが、ある体験を通して、人権が私たちの身近に存在するものであること、自分にもできることがあると感じました。



「小さな勇気」

米野岳中2年 角田麗奈さん

最優秀賞 県人権擁護委員連合会長賞

そうじ自分の買った物を済ませて誰もおばあさんを見かけられる様子はありませんでした。

その時は、どうするべきか迷いました。おばあさんが困っているのは明らかで、急に声をかけるのは失礼なことか、誰かを助けるのは怖いと思ったのです。おばあさんが困っているのは明らかでしたが、もし自分の行動がおばあさんにとって迷惑だったらどうしようか不安がありました。また、自分がその場で何もしていないのは、他の誰かが助けてあげるだろうと思いましたが、おばあさんが困っている姿を見て、このまま黙って置いたらどうなるか、おばあさんが困ったままだと感じました。何より自分が行動しなければ、おばあさんは困ったままだと思い、勇気を出して「お手伝いしましょうか。」と声をかけたそうです。おばあさんは、すぐに「ありがとう、ごめんね助かるわ。」と微笑んでくれたそうです。おばあさんは何度もお礼を言ってくれ、角田さんはおばあさんの不安や困難を少しでも和らげることができ、嬉しくて心が温かくなったとのことでした。

この体験を通して私は、「人権」は特別なものではなく、日常の中で私たちが簡単に守ることができるものであると学びました。また、「他人への思いやりや共感の大切さを確認できた。」とも述べています。私もその通りだと思います。普段の生活の中で何気ない気遣いや心遣い、何気ない声かけや配慮、ちょっとしたことに救われる人はたくさんいます。私も今までの教職生活の中で、悩んでいるときに、それに気付いて声をかけてくださった諸先生方がおられます。その様な言動にどれだけ救われたか分かりません。人権意識・人権感覚を研ぎ澄まし、とまでは言えませんが、「あれっ」と思ったときにスルーするのではなく、立ち止まって考え、最善と思う声かけ等ができる校長でありたいと考えさせてもらえる作文でした。

普段の生活の中で、私たちは他人のことをあまり意識することがありません。少し立ち止まったり、周りの人がどんな気持ちでいるのかを考えると、大切なことです。おばあさんや小さな子ども、障害を持つ人々など、私たちの助けを必要としている人が身近にいないことを忘れてはけません。人権を守ることは、他人の思いやりや、共感することから始まります。私たちが一人一人が人権を尊重し、思いやりをもつた行動をすることで、誰もが安心して生活できる社会を作ることができると信じています。そして、そのために私たちが日々の生活の中で、小さな行動を大切にすることが必要です。